

工藤教孝 (Noritaka Kudoh)

Ph.D. (State University of New York at Buffalo)

専門：マクロ経済学 (理論・数量分析)



研究室の概要

- 工藤研究室は研究者や専門家を目指す熱意ある大学院生を歓迎します。数理的・数量的な分析に明け暮れる毎日と一緒に楽しみましょう。
 - 他学部出身者も歓迎します。
- 工藤研究室では、取引機会に制限のある摩擦的市場を分析可能な「サーチ理論」を中心に据えながら、マクロレベルで労働市場や財市場を分析しています。
 - 数理モデルの構築・分析ならびにシミュレーションを通じてデータの特徴を解明するという研究スタイルを採用しています。
- 修士課程の指導では、分析技術獲得ならびに先行研究の結果を再現・追試する活動に力を注いでいます。
- 学生の力量と個性次第ですが、博士後期課程は、共同論文執筆を通じた研究指導を想定しています。
- <https://sites.google.com/site/noritakakudoh/>

主要業績

- "Prominence and Market Power: Asymmetric Oligopoly with Sequential Consumer Search" (with Makoto Hanazono) *International Economic Review*, 65 (2024) 1103-1587.
 - 摩擦的な市場において、店舗数の意味でより大きな企業がより強い価格支配力を持つことを数理モデルを通じて発見しました。
- "Do General Equilibrium Effects Matter for Labor Market Dynamics?" (with Hiroaki Miyamoto) *Economic Modelling*, 119 (2023) 106108.
 - 所得増加が労働意欲を引き下げる「所得効果」を景気変動上でとらえる数理モデルを開発し、シミュレーションを通じて、それが景気変動を縮小させることを発見しました。
- "Employment and Hours over the Business Cycle in a Model with Search Frictions" (with H. Miyamoto and M. Sasaki) *Review of Economic Dynamics*, 31 (2019) 436-461.
 - 日本の景気変動上の雇用調整はその79%がひとりあたり労働時間の変化で説明できることを明らかにし、その事実を再現する数理モデルを開発し、シミュレーションを行いました。

工藤研究室の構成（8月現在）：修士課程8名、博士後期課程5名

博士後期課程在籍学生の研究内容

- かつて保育の全ては家庭内で行われていましたが、現在は市場で保育サービスを得ることができます。この種の構造変化が起きるメカニズムを明らかにするような数理モデルを構築し、数量分析によって仮説の評価を試みています。
- 景気低迷に伴い、条件の良い職が得にくくなると、例えばエンジニアの技能を持つ者がカフェで勤務するというようなミスマッチが生じる傾向が強まります。そのような状況を数理モデルで発生させ、それがどの程度景気変動を増幅させるのか、数量的に評価しようとしています。
- 急激な技術進歩によって最先端技術を使いこなせない労働者が増えるとき、人々が労働市場から退出してしまうのかどうか、ならびに政策介入の是非について、数理モデルを通じて解明しようとしています。

研究計画書作成上のアドバイス

- 重視しているのは「あなたの経済学への情熱」です。それが強いから大学院を志しているはずですので、例えば授業や教科書の何に感動して大学院で学びたいと思うに至ったのか、明記してください。
- 研究室の方向性については十分に理解した上で応募いただきたいですが、専門的なことを大学生のあなたが今知っているはずはないので、研究計画書は「あなたが今知っている専門知識の範囲内」で書いてください。背伸びは必要ありません。
- データ分析の研究室ではないので、研究計画書に推計方程式を書かないでください。
- あなたがどのような社会や経済の問題（あるいは学術論文）に興味を持っているのか、などを具体的に記述することを通じて、あなたの個性や独自性を出してください。入学後はそれをヒントに修士論文のテーマ探しをします。